

令和 6 年度（2024 年度）

宇部看護専門学校

学校自己点検・自己評価

評価対象期間 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

学校評価（学校関係者評価）

1. 学校自己点検・自己評価の目的

看護師等養成所として「教育水準の維持・向上」と「創意工夫のある教育の追究」を図るため学校自己点検・自己評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の4段階で自己評価する。

- 4 （当てはまる）
- 3 （だいたい当てはまる）
- 2 （あまり当てはまらない）
- 1 （当てはまらない）

3. 学校自己点検・自己評価の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程経営
- IV. 教授・学習・評価過程
- V. 経営・管理過程
- ~~VI. 入学~~ ⇒ 今年度から学生募集を停止したため、評価していない
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域貢献
- IX. 研究

4. 自己点検・自己評価結果

I. 教育理念・教育目的 【評価点 3.2】

II. 教育目標 【評価点 3.2】

指定規則に基づき、法との整合性を考慮しながら、教育理念・教育目的、教育目標を教員間で共有し、学生の指針となる教育内容を確認・改善してきた。教育目標は一貫性をもって具体的に設定しており、学則、学生便覧・実習要綱に明文化している。

教育理念・教育目的は最も重要な部分であり、卒業時の到達度を明確にして継続的に改善・検討をしていくことが課題である。目標の到達レベルについても、学生個々のレディネスや実態を把握し検証していくことが大切である。

III. 教育課程経営 【評価点 3.0】

教育課程の編成については、単位履修の考え方、科目の配列及び単位認定・評価について学則、学生便覧、実習要綱に明文化し、学生にも周知している。臨地実習については、実習施設ごとに事前事後の連絡会議を行い、本校の教育理念・教育目的、教育目標についての理解を図り、学生の学びを保障し支援する体制を整えている。

カリキュラム改正後、基本的な考え方に沿って現在継続実施している段階である。

来年度は限られた教員数の中で、効果的な教育課程を推進するためのカリキュラムの工夫改善が求められる。

IV. 教授・学習・評価過程 【評価点 3.0】

授業計画は科目ごとに作成し、ホームページ上で閲覧できるようにしている。また、就業先にも時間割表を送付し学生が学習に取り組みやすいよう協力を得ている。

教授については各担当教員の裁量に任されている部分が多い。授業評価等をもとに授業改善に努めているが、学生に対して一貫した指導を行なうために教員間の情報共有をより強化していく必要がある。

V 経営・管理運営 【評価点 2.3】

組織体制として、運営委員会、教務会議、教員会議、講師会議、実習調整会議を設け、本校の教育全般について教職員の共通理解を図り、学生の効果的な支援を行うために協議を重ねているが十分機能しているとは言えない。学生に対しては担任や担当教員による評価面接「なんでも相談窓口」を設置し様々な立場の者に相談できる体制を整えている。

経営状況から再来年度学校を閉校することとなり、施設設備等の環境改善等に制限があるが、在校生にとってできる限り不利益とならないよう財政状況とのバランスを取りながら計画していくことが必要である。

VII 卒業・就業・進学 【評価点 2.5】

再来年度で閉校となるが、資格取得、卒業後の進路については、全体指導、個別指導を含め、全力で支えていくように努めている。

卒業後の進路については、医療機関、看護協会等関係機関との連携を図りこれまで同様継続していく。実習時の会議、調査等を通して実習先病院、就業先病院から得た卒業生の就業や進学の状況・情報を教育活動に生かしていきたい。

VIII 地域貢献 【評価点 2.1】 IX 研究 【評価点 1.9】

例年実施されている「山口宇部空港消防救難訓練」や地域のボランティア団体が主催する「happy together」「はあ〜と of ふれんず」へ参加等により、継続的に地域貢献を行っている。留学生や帰国学生の受け入れは行っていない。

教員の研究活動については、対面での研修会やe-ラーニング等Webでの研修会への参加により個々の資質向上に努めている。また会議や連絡会等を通して他の教員に還元できるよう工夫している。

来年度は教員数も不足する中で教育力維持向上に向けて、いかに研修機会を確保提供するかが課題である。